

■ 議題

今回の番組審議委員会は、4月5日（金）林みづきナビゲーター担当の『ヒッツ・ヴォイス・オブ・ザ・コンパス』内で午後2時12分より放送した新コーナー「難読 漢字博士への道^{※1}」と、4月8日（月）亀山陽子ナビゲーター担当の『ヒッツ・ヴォイス・オブ・ザ・コンパス』内で午後3時12分より放送した「TODAYS ゲスト^{※2}」、さらに4月10日（水）遠藤尚美ナビゲーター担当の「ヒッツ・デイリー・エクスプレス」内で午前11時30分より放送した新コーナー「白ひげ弁護士の徒然日記^{※3}」を聴いて審議に入った。

※1 「難読 漢字博士への道」

コーナー内容： 意外な読み方をする漢字のクイズを出題し、答えを考える間、林ナビゲーター本人による楽器の生演奏を届ける。おもちゃのリコーダーや鉄琴などの楽器を使い、誰もが聴いたことのある曲を生演奏する。

※2 「TODAYS ゲスト」

コーナー内容： 地元開催のイベントなどについて、出演者本人や関係者をゲストに迎え、告知していただく。この日は日下部民藝館で4月21日（日）にコンサートを行った名古屋出身のサクソフォン奏者 水野雄太（みずのゆうた）さんにゲスト出演していただき、自身についての話しや、コンサートの告知などを行った。

※3 「白ひげ弁護士の徒然日記」

コーナー内容： 東京で弁護士活動を行いながら、上宝町で「まんま自然人倶楽部」を運営する金住則行（かなずみ・のりゆき）さんが、外から見た飛騨高山と中から見た飛騨高山について語る。

■ 審議内容

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、聴取した内容についてでもよいし、普段聴いている放送についてでもよいので、順次、意見をお願いしたい。

西尾委員：「漢字博士への道」のコーナーは、林ナビゲーターがとても初々しく、個性を感じるナレーションだった。聴いているとつい引き込まれ、答えを考えてしまうような内容で、非常に練られたコーナーだと感じた。シンキングタイム中のリコーダーの生演奏は、新鮮というか、初めての感覚だが、たいへん「ほのぼの」していて良かった。

「水野さん ゲスト出演」は、亀山ナビゲーターが、ゲストがどのような方なのかということを紹介してから本題に入っていて、リスナーに対して非常に親切な流れだと感じた。ただ、もう少し希望を言えば、歴史と音楽（サクソフォン）のコラボという、なかなか結び付かない、非常に新しく個性的な試みだと思うが、それについてはすんなりと通してしまっていたので、例えば経緯や狙い、今後の展開などについて話の広がりがあると、より興味を惹いたのではないかと思った。とは言え、スポーツの話から、名古屋出身と絡めてドラゴンズの根尾選手に持っていくあたりが、非常に鮮やかな流れだと思った。

「徒然日記」のコーナーは、非常に深い内容にも関わらず、遠藤ナビゲーターの相槌がとても上手いなと思った。「お金は無くてもいいよ。貯めても…」という話しに、すかさず「私は貯めたことが無いかな」と当意即妙な返しをしていて非常に面白かったし、進行も洗練されていて慣れた感じが聴きやすかった。BGMもコーナーの趣旨に添っていて非常に聴きやすかった。

大萱委員長：林ナビゲーターもデビューからもう3年くらいになると思うが、色々な企画で楽しませてくれていると思う。亀山ナビゲーターと遠藤ナビゲーターはベテランなので、意見の通りだと私も思った。
林ナビゲーターのリコーダーは、わざとあのように（少し音を外して）吹いているのか？楽譜は見えていないのか？

会社側：真剣に吹いていると思うが、練習をする時間もあまり無く本番を迎えているのではないかと思う。また、楽譜は無く、耳コピだったと思う。

大萱委員長：幾つか全く違った音が出ていたが、それも味があって良いと思う。

安藤委員：「漢字博士への道」は、映像の無いラジオでどのように漢字を説明するのかと思いながら聴いていたが、表現力が率直で、耳にスーッと入ってくるような非常に分かりやすい内容だった。放送時間も金曜日の午後ということで、間もなく一週間が終わり「明日は休み」という気分の中でとてもコミカルで、時には「クスッ」とした笑いを誘うコーナーになっていて、良い構成だと思った。リラックスもでき、新しい発見もある非常に勉強になる内容だった。

安藤委員：「水野さん ゲスト出演」は、とてもテンポの良いやり取りで、ゲストに話をさせるナビゲーターのテクニックが非常に巧妙だと感じた。私のように演奏に全く馴染みの無い人を、いかに惹き付けるか、いかに引き込むかということも考えられた内容で、とても分かりやすいトークをしていた印象だ。イベントの告知もしっかりされていて良かったが、欲を言えば、最後の音楽をもう少し聴きたかった。4千円払って、飛騨の奥まで行って、それでも聴きたいという観客を誘い込むには、もう少し味見・試食ができる何かがあると良いなと思った。

「徒然日記」は、とても道徳的・哲学的な深い内容で「ちょっとここで人生について考えてみよう」というやり取りもあったが、間もなくお昼の休憩に入る時間帯なので、なかなか難しいかもしれないが、少し笑いを入れるような、リラックスして聴けるような雰囲気があるともっと聴きやすくなるのではないかなと思った。

大萱委員長：コーナーの放送がどの時間帯で、リスナーがどのような状況で聴くのかということまで考えていければ、より良いということだと思う。

保木委員：「漢字博士への道」は、私も漢字をどのように言葉で伝えるのかと思って聴いていたが、聴いてみたら意外に面白く、後からじわじわ残る感じだった。1週間にコーナーが1回あって、何か1個ずつ難読漢字が記憶に残っていくのも、新鮮で面白いと思う。

「水野さん ゲスト出演」は、水野さんの情報や人物像、経歴などを色々と聞いていて、ラジオを聴いているほうも徐々にワクワクした気持ちになった。また、会場についても、ただ日下部民藝館と言われてもイメージできないが、日下部民藝館は天井が高いので、どのように音が広がるかという話をされていて、そういった話を聴くと行ってみたいなという気持ちになるので、話の持っていく方が上手いと思った。また、会話のテンポも良かった。

「徒然日記」もテンポが良く、また、遠藤ナビゲーターの声質が落ち着いていて、こちらも気を抜いて楽な気持ちで聴けた。途中、遠藤ナビゲーターの笑い声もあり、リラックスしながら楽しく聴けた。テーマも「外から見た高山」ということで、個人的にもすごく興味があり、良い番組内容だと思った。

大萱委員長：ラジオからの音（声）のみの情報から、色々なことが想像できたという意見だと思う。

川原委員：「漢字博士への道」は、私も漢字のクイズをどのように出題するのだろうと思っていたが、視覚情報が無くてもちゃんと漢字が浮かんできて分かったので、とても良かったと思う。また、車でヒッツ FM を聴いている時も、他のナビゲーターの声は何となく似ていて区別がつかないが、林ナビゲーターの声は特徴があり、ラジオを点けた瞬間、すぐに林ナビゲーターの声だと分かるので、リスナーに覚えてもらうにはすごく良いことだと思う。少し特徴的な声と話し方が、とても聴きやすく覚えやすいという意味ではプラスになると思う。

「水野さん ゲスト出演」は、音楽(サクソ)に関しての情報量が多く、音楽に興味のある人は惹き込まれやすいのかもしれないが、私は音楽のことがあまり分からないので、話に入っていくのが難しかった。情報をたくさん聴くより、実際にサクソ演奏を聴きたいと思った。今回、最後に演奏(CD)があったが、それをもう少し中盤にもってきて、生演奏してもらおうか、長く曲を流すとか、馴染みのある曲を流してもらおうと、音楽に関心の無い方も惹き込まれるのではないかなと思った

「徒然日記」はとても深い内容で、思わずメモを取りたくなってしまふような話だった。人生論や幸福論という難しい内容だったが、自然に頭に入ってきて「なるほど」と思えるような内容だった。そのような難しい内容でも、自然なやり取りができていてすごいと思った。話しも誰もが興味のある、惹き込まれるような内容だったと思う。

大萱委員長：先程も演奏についての意見があったが、本日の聴取内容と同じで、当日の放送でも中盤に演奏は全く無かったのか？

会社側：CDによる音源を最後に聴いてもらっただけだ。

大萱委員長：ゲストには事前の打ち合わせで、演奏のお願いの確認をしたり、演奏(生演奏・CD音源出し)のタイミングも、今後、考えていただきたい。

水川委員：私自身、ヒッツ FM の番組の中でも、心理テストのコーナーなどは、ついつい注意深く聴いて参加する事がある。今回聴取した「漢字博士への道」もクイズ形式になっていて、楽しみながら参加ができとても良いなと思った。また、ゆるい感じがすごく可愛らしく、面白いと思った。リコーダーの生演奏で、ちょっと変な音が入るのは耳コピだからということだったが、それをリスナーがおかしいと思って聴くのか、耳コピだという予備知識があって聴くのとでは、ちょっと違った印象になると思うので、そういった情報も伝えるともっと楽しんで聴けるのではないかなと思う。

水川委員： 「水野さん ゲスト出演」は、話の引き出し方が上手いなと思ったが、私も演奏（曲）がもっと聴きたいと思った。コンサートに行ったら、曲が自分の趣味ではなかったとか、つまらなかったという時もあるので、やはりじっくり曲を聴いて、良いなと思ってからコンサートに行くのとは満足感が違うと思うので、もう少し曲が聴けると良かった。

「徒然日記」は、やはりベテランということで、すごく聴きやすく、ゆったりした気分で聴けて良かった。また「外から見た飛騨高山」と「中から見た飛騨高山」という内容は、私もすごく興味があり、また、こういった話題を飛騨地域外の人に話してもらうのは、とても新鮮で良いと思った。

大萱委員長： 「徒然日記」は、人間関係などについても交えていて、金住さん（白ひげ弁護士）の話もさすがだなと思った。

ゲスト出演時の演奏については、コーナーの時間枠もあると思うので、決められた尺の中で上手く割り振れるような工夫をお願いしたい。

田中委員： 「漢字博士への道」は個性的なコーナーで、リスナーをクイズで引き付け、さらに、微妙な演奏で引き付け、聴いていると二重に引き付けられる感じがした。今後の展開にも期待したい。

「水野さん ゲスト出演」は、スムーズな会話のやり取りができていて良かった。また、最後に問い合わせ先などを繰り返し伝えていたことも非常に良かった。最後に曲を流していたが、時間があるようなら途中にも曲を流しワンクッション入れる形でも良かったと感じた。

「徒然日記」の金住さんは弁護士ということで、とても説得力のある内容で、話し方も上手かったと思う。ただ、金住さんだけがトークしているように聴こえた。主役は金住さんで良いと思うが、遠藤ナビゲーターが相槌と頷きだけに感じたので、遠藤ナビゲーターの質問に対して金住さんが答えるという形のほうが、ラジオを聴いている人には、今、何について話しているのかが分かりやすくなると思う。

大萱委員長： 今の意見を遠藤ナビゲーターに伝えて、少し改善をしてもらえればと思う。これまでの意見では、林ナビゲーターの「漢字博士への道」が、今回、とても良い評価なので、それを本人にも伝えて欲しい。

原委員： 林ナビゲーターは、非常に個性的で、とても印象に残る、耳に残るナビゲーターだと思う。「漢字博士への道」も林ナビゲーターならではのコーナーだったと思った。出題される漢字をラジオで聴いただけで想像するのは難しいと思ったが、すんなりと想像できた。とても面白いコーナーだったと思ったが、漢字の説明がもう少し欲しかった。

原委員：「湯（ゆ）湯（ゆ）婆（ば）は「ゆたんぼ」でした（今回の出題）」と読み方を伝えてささっと終わっていたので、「博士への道」と題しているのであれば、どうして「湯」が2回とお婆さんの「婆」で「ゆたんぼ」となるのか、そういう説明があると良かった。または、自分の感想や考えを加えてもより印象に残るのではないかと思う。着眼点は非常に面白いと思った。ただ、リコーダーの演奏が非常に気になって、考えることを忘れてしまうので、本当にリコーダーの演奏が要るのかなと…。これまでの皆の意見を聞いても、リコーダーの演奏はあったほうが良いのか、無いほうが良いのか、判断するのは難しいが、私は、特に無くても良いと思っていて、一般的な曲を流して考える時間としたほうが、漢字に特化したコーナーになると思った。

「水野さん ゲスト出演」については、亀山ナビゲーターはベテランでインタビューもしょっちゅうしているので、非常に聴きやすかった。「コンサートの告知」ということで、演奏内容には触れていたが、ほとんどがその話だったので、やはりもう少し曲が聴きたかった。曲を聴いて「行ってみようかな」と思うこともあるので、そこが惜しかったと思う。

「徒然日記」の遠藤ナビゲーターもベテランなので、非常に相槌も上手く、聴きやすかったが、遠藤ナビゲーターが感じたことなど、もう少し突っ込んだ話をする、金住さんの一方的な話しにならず、行ったり来たりした会話になり、内容にも膨らみが出てくる可能性があると思う。

大萱委員長：「漢字博士への道」のシンキングタイムのリコーダー演奏は、特に止めてくれというわけではないが、演奏に気を取られる可能性はあると思う。ただ、印象はすごく残ると思う。コーナー自体は、かなり良い印象なので、是非、続けてパワーアップしていただきたいし、なぜ「湯湯婆」で「ゆたんぼ」なのかという、その由来まで突っ込んで取り上げると、より一層、膨らみのあるコーナーになるのではないかと伝えて欲しい。今回の意見はダメ出しでは無く「もっとこうしたら良いのではないか」というプラスの意見なので、ぜひ3人のナビゲーターに伝えていただきたい。そして、より一層、素晴らしい番組にさせていただくようお願いしたい。その他の意見はないか？

田中委員：4月19日の古川祭りでは、確か現地からのリポートがあったと思うが、ナビゲーターの実況中継のみで終わっていたので、できれば観光客や屋台関係者など祭り関係者にインタビューしても良かったと思う。観光をPRする職の私からすると、そういったインタビューも入れて欲しかった。

大萱委員長： 今後はインタビューも検討して欲しい。ずっとラジオを聴けるわけではないので、ある部分だけを聴いた時に、今の意見にあったような印象になってしまうこともあると思う。放送時間の中で、情報をどう上手く散りばめて伝えていくかということも検討して欲しい。実際、今回の古川祭りは、レポートだけだったのか？サテライトの設置はなかったのか？

会社側： サテライト放送はしていない。隣町であってもヒッツ FM が受信できる範囲なので、今後は、レポートだけにしても、1回ではなく何回か入れるようにして、観光客や関係者にインタビューする時間も作りたいと思う。

大萱委員長： 良い意見なので、祭りはまた1年後になるが課題にして欲しい。

原委員： 飛騨市の都竹市長が出演しているコーナーがあると思うが、非常に聴きやすかった。また、せっかく飛騨市長が、今こうしてヒッツ FM の番組に関わっているのも、もし可能なら、来年以降の古川祭りでコーナーを作ってもらっても良いのではないかと思った。それに高山市民が、隣町の古川町について知っているかと言えば、そうでない人も結構居るので、古川町の宣伝にもなると思う。さらには、古川町でもヒッツ FM を聴いてもらえるきっかけになるかもしれない。

大萱委員長： 都竹市長が自ら観光案内をしていたと思うが、そういうところに同行しても面白かったと思う。そういった情報を前もって手に入れることも、非常に大事なので、是非飛騨市の情報もしっかりと把握し、放送に取り組んで欲しい。
改元を迎える今月30日と翌月1日には「提灯行列」や「屋台特別曳き揃え」があるが、ヒッツ FM としては何か予定しているのか？

会社側： 5月1日の「屋台特別曳き揃え」については、春・秋の祭り屋台と一緒に出されるため、サテライト放送ではなくレポートを数回入れる予定だ。回数・時間など、具体的なことについては調整中だ。
4月30日の「提灯行列」については、事前告知のため市政情報番組「市役所からこんにちは」の中で、実行委員長の山下さんに出演していただく予定だ。また、屋台特別曳き揃えイベント関係者の洲岬さんにも出演していただく予定だ。それ以外には通常の番組の中で適宜紹介していく。「こだま〜れ（3年に1度行われる文化芸術祭）」の関係では、ラジオドラマに向けて5月よりボイストレーニングを始める予定だ。

大萱委員長：「飛騨高山文化芸術祭」が3年に1度行われていて、3回目となる今回は、実行委員会プロジェクトのメイン事業として「市民がつくるラジオドラマ」の制作を、ヒッツ FM に協力してもらい進めていく。市民が主役となってラジオドラマに出ていただくことにしているが、その前にしっかりとボイストレーニングを積んでもらいたいので、現在、出演希望者を公募していて、ぼちぼち集まってきているところだ。ボイストレーニングが5月から始まり、脚本が今月4月くらいにできあがり、オーディション等で配役を決めるという段取りで、年度末に放送ができるよう進めている。NHKの朝の連ドラのように、1回の放送が15分～20分で、4回～6回くらいで完結する高山を舞台にした物語で、飛騨弁も取り入れるつもりだ。文化芸術ということで考えると、言葉も文化だと思うので…。言葉（声）からどう想像するのかということ、実は非常にラジオドラマは難しいのだが、良いこととしては、素人でも台本を見ながらできるということがある。映像となるとやはり全部（セリフ・動き・表情など）入れなくてはいけないというハードルがある。決してラジオドラマが簡単というわけではないが…。

ヒッツ FM には世話になるが、よろしくお願ひしたい。番組審議委員の皆へ、進捗状況などの報告を私からもするが、ヒッツ FM からもして欲しい。今回の文化芸術祭は、夏場に集中しているが、市民から提案いただいたものだけでも31のプロジェクトがある。音楽以外のプロジェクトも多く、5月26日のオープニングイベントでは、書道家の武田双雲さんに出演いただく。他にも非常に興味を持ってもらえる企画を用意しているので、是非ヒッツ FM にも盛り上げていただきたい。

会社側：今日は忙しい中、貴重な意見をいただき感謝している。良かったところは良かったと伝え、改善していくところは、反省や見直しをしながら向上できるよう頑張っていきたいと思う。

■審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

平成31年4月23日（火）

番組審議委員会の席上で説明

■その他の参考事項

次回開催日 令和元年6月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）